



JOC-MPC プレスリリース

2024年8月7日 12時15分

JOCMPC-24-018

第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）

メインプレスセンター（MPC）内JOCオフィス

Tel: +33 (0)9 20 24 05 79

E-mail: pressoffice@joc.or.jp

※本リリースに記載の時間は原則としてパリ時間となります。

件名：第33回オリンピック競技大会(2024/パリ)

トラック チームパシュート女子予選

チームスプリント男子1回戦・順位決定戦

標記の件について、レース結果並びに選手のコメントをお知らせ致します。

記

■日時

2024年8月6日

■会場

ヴェロドローム・ド・サン・カンタン・アン・イヴリーヌ

パリ五輪第12日（6日）、自転車競技トラック チームパシュート女子予選、チームスプリント男子1回戦・順位決定戦が行われた。チームパシュート（梶原悠未/内野艶和/池田瑞紀/垣田真穂）は、4分13秒818で全体の10位で予選敗退。チームスプリント（長迫吉拓/太田海也/小原佑太）は、1回戦でフランスに敗れ5-6位決定戦に回り、ドイツ相手に42秒078の日本新記録を好走で全体の5位でレースを終えました。

長迫吉拓（チームスプリント）のコメント

「フライングで再スタートになった影響は確実にあったと思います。1本目のスタートはかなり良いスタートが切れたと思うので、リズムが狂ったところはありません。（スタートでのスリップについては、）「やってしまった」という感じです。今回は2走の太田選手、3走の小原選手がなんとか繋いでくれてコンマ2秒差で抑えてくれたので「惜しかったな」と思うのですが、ほんの少し早く出てゲートに引っかかってしまったことが悔やまれます。順位決定戦の前、太田選手と小原選手が（1回戦の）失敗の後でも「次は日本記録を目指そう」と笑顔で言ってくれ



JOC-MPC プレスリリース

ました。これが僕の最後のオリンピックだから、全力で走ろうと思って、自己ベストに近いタイムを出すことができました。悔しいですけど、全力を出すことはできたと思います。」

太田海也（チームスプリント）のコメント

「自分たちの 100%を出し切れなかった悔しさがあります。それでも 4 年後のロサンゼルスへ、すごく良い一步を踏み出した日になったとも思います。どのチームでもリスタートになると、動揺したり、慌てたりするのは当たり前のことです。1 回戦の後は話し合いをすることなく、5-6 位決定戦の前に「日本新を出しにいこう」とチーム内で話しました。長迫選手がもっと速く走れることを練習で見てきましたし、自分も小原選手ももっと速く走れたと思います。41 秒台に入るポテンシャルがある中で、本番でこういう結果というのは、日本チームの弱さでもあります。そういう部分を見つめ直して戦っていく必要があると感じました。」

小原佑太（チームスプリント）のコメント

「フライングが 2 回があって、自分たちのペースを乱される形になりました。とはいえ結果は仕方ないと思っています。2 本目でしっかり自分たちの記録を塗り替えることができたので、よかったと思っています。メダルを目標に走ってきましたし、予選の感触でもメダル争いにいけると感じていました。この 3 人にメンバーが固定してから 2 年強になります。メダルが目標でしたが、この 2 年間にはメダル以上の価値があったと思いますし、この 3 人だったからここに来ることができました。このメンバーが誇りですし、すごく尊敬できる 3 人で走ることができた。良い旅になったと思います。」

梶原悠未（チームパシュート）のコメント

「最初の 2 周半チームのスピードを作り、後半まで維持して全体をまとめる役割でした。ベストなパフォーマンスは発揮できたと思います。ひとりひとりがベストのピーキングをして、一番強い状態で臨むことができました。この 2 年間みんなでチームパシュートの練習をしてきたので、その成果がこの 4 分 13 秒に発揮できたと思います。若い選手たちが初めてのオリンピックで堂々と戦えていました。今日良いパフォーマンスを発揮できたので、11 日のオムニウムでの目標達成に向け、頑張っていきます。」

内野艶和（チームパシュート）のコメント

「日本新記録についてはとても嬉しいです。自分達としてのベストが出たということは、素直に喜んで良いことだと思います。緊張が出て、序盤に設定タイムより少し速く入ってしまいましたが、それでも最後まで落とし切ることなく、しっかりみんなで回して走れたと思います。最初の半分くらいは結構速いペースになっていたと思います。」

垣田真穂（チームパシュート）のコメント



JOC-MPC プレスリリース

「自分は4走。1走・2走が作ってくれたペースをキープしてキツイ役割でもあり、長く前を牽いて1走・2走を休ませる役割、それから最後のゴールでしっかり上げてみんなを引っ張る役割です。2回目のローテーションの時にちょっと落としてしまって、タイムロスしてしまったなと思います。この日のためにみんなで頑張ってきて、ベストを尽くすことはできたと思います。日本記録を出せたことは良かったのですが、走り終わって他の国のタイムを見ると「もう少しで予選を上がったのに」という気持ちがあって、悔しい気持ちがあります。」

池田瑞紀（チームパシュート）のコメント

「初めてのオリンピックで緊張もありましたが、それ以上にワクワクして「自分達の力を出し切るぞ」という気持ちで臨むことができました。日本記録を更新することができましたが、ラップタイム、ライン取りや車間の詰め具合など他のチームの強さも改めて感じ、まだまだやらないといけないことがたくさんあるとわかりました。自分はみんなより重いギアを踏めていません。2回目、3回目のローテーションでペースを上げていく力がなかったです。そこが課題だなと思います。」

以上